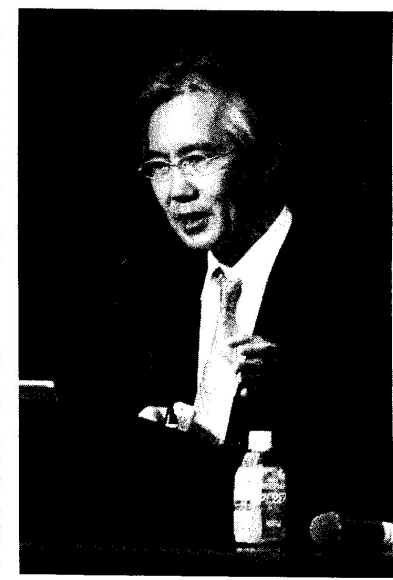


### 基調講演

## 中川恵一 東大准教授(放射線科)

欧米では、がんで亡くなる人は減っていますが、日本ではほとんど増えています。日本人の2人に1人ががんになり、3人に1人ががんで死ぬという時代になりました。

昨年、毎日新聞が実施した世論調査によると、がんについて皆さんよく知らない。例えば、放射線治療について、副作用が心配、時間やお金がかかる、といった勘違いがたくさんあります。がんの痛みを取る緩和ケアの考え方を、72%の方が知らない。科学的な情報を集めるがん登録の法制化には、ほとんどの方が賛成していない。日本は世界一のがん大国ですが、日本人の間でおそらく最下位です。



三つの治療法の中で、がんを完治させるには手術か放射線治療が必要。皆さん手術が好きですから、放射線治療の割合が非常に少ない。現在、国内で年間20万人ほどが受けています。これはがんの患者さんの25%

るのではないかと、そんな風潮があるように思えます。都市化や核家族化が進み、病院でしか死ななくなった。宗教心が減ってきた。我々の生活や心の中から死ぬということが抜け落ち、がんの話は耳に入らない。

日本では特に手術が人気があります。なぜか。かつて、がんと言えは胃がんという時代がありました。胃がんの治療は、今も昔も圧倒的に手術が多い。胃は比較的簡単に全摘でき、手術向きです。「がん治療は手術」というのは昔は正しかったが、胃がんが急速に減った今はもう成り立たないのです。

乳がんの患者さんで、放射線治療を受ける場合、外来で通院し、毎日1分間寝ているだけで、よく「放射線で焼く」と言う方が、お乳の温度は2000分の1度上がるだけ。全く感じま

# 予防には禁煙、運動、検診

がんになる確率を下げるには、野菜、果物を取り、肉はほどほどに。塩を控えて、酒もほどほどにする。運動をする。なかなか難しいですけど、こういうことを日常的にやる。それから検診です。特に乳がん、子宮頸がん、大腸がんの三つは、やらなければ損です。禁煙、野菜と運動、それにかん検診が、非常に大事です。

がんは元々、自分の細胞です。免疫細胞には見えていない。放射線を当てると、異物だと見えるようになり、(免疫細胞)リンパ球が攻撃する。だから、このがんを培養液の中で育てて、放射線を当ててもびくともしません。培養液の中には免疫の細胞がないからです。つ

まり、放射線治療は人の体の中でしか成立しない。広い意味では免疫療法と言ってもいいかもしれません。

放射線治療は臓器の機能や美容を保ち、多くのがんで手術と同じ治療率で、手術よりも一般的には安い。手術がいけないというわけはありません。もう一つ別の手段があるということ

せん。がんは元々、自分の細胞です。免疫細胞には見えていない。放射線を当てると、異物だと見えるようになり、(免疫細胞)リンパ球が攻撃する。だから、このがんを培養液の中で育てて、放射線を当ててもびくともしません。培養液の中には免疫の細胞がないからです。つ

を知り、よく情報を集めて、自分で決める。それが大事だと申し上げた。

がんの痛みを取る基本は、モルヒネなどの医療用麻薬です。医療用麻薬の消費量は日本は世界の平均以下で、米国の20分の1です。

皆さんに聞くと、確かに嫌がります。「命が縮む」と言われ

薬を避け、人生の仕上げの大事な時期に痛みと闘うことが仕事になってしまつて、結局、命も短くなる。これが日本の現状です。がん治療は残念ながらあまり進歩していない。ですから、予防と早期発見が大事です。

一番大事なことはたばこを吸わないこと。たばこを吸わない奥さんの原因はご主人のたばこだった、というデータがある。他の人に影響を与える。ここがたばこの問題です。

がんになる確率を下げるには、野菜、果物を取り、肉はほどほどに。塩を控えて、酒もほどほどにする。運動をする。なかなか難しいですけど、こういうことを日常的にやる。それから検診です。特に乳がん、子宮頸がん、大腸がんの三つは、やらなければ損です。禁煙、野菜と運動、それにかん検診が、非常に大事です。